

Warts and all “ありのまま”の映画を作り続ける英国人映画監督

現在、英国では、知る人ぞ知る偉大な英国人映画監督ケン・ローチの作品回顧展が英国映画協会によって開催されています。ケン・ローチは、1960 年半ばに論争を巻き起こし影響を及ぼした、貧困や失業、ホームレスにフォーカスした Cathy Come Home という作品で登場して以来、精巧的に、力強く、人生のドラマやドキュメンタリーを、約 50 年間に渡って作り続けています。Cathy Come Home はドキュメンタリータッチのドラマとして描かれています。この作品は、通常、映画界から求められる妥協を拒否した初期の彼の決意の表れであり、映画のテーマを正直に現実的な方法で表現しています。英国の今を知りたい方は、ケン・ローチの作品でかなり正確に知ることができます。彼のアプローチは 'warts and all' と表現され、長所も短所も含めて、欠点も何もかもさらけ出して、ありのままを描写しています。そして、それは決して美しい情景ではありませんが……。

英国映画の観点から、ケン・ローチ監督の作品は、Bridget Jones's Diary (ブリジット・ジョーンズの日記)や Notting Hill (ノッティングヒルの恋人)、Love Actually (ラブ・アクチュアリー) のようなゴージャスで元気がでる映画とは対極に位置づけられています。これらの映画は彼の作品に比べて、より気楽な英国観を与えます。素敵にみえるロンドンの一区画をロケ地とし、あきらかに典型的でない魅力的な若い英国人俳優たちを売りに出しています。そして、アメリカの影響が大きく、国際的な市場を念頭においているので、アメリカ人のゴージャスな俳優を最低 1 人は登場させます。

これら 2 つのグループの他にも、第 3 のグループとして、近現代を描いた映画が多く作られるようになりました。The Queen (クイーン)、The Damned United (くだばれ！ユナイテッド～サッカー万歳～)、The King's Speech (英国王のスピーチ)や、もうすぐ英国で公開されるメリル・ストリープが前英国首相マーガレット・サッチャーを演じる The Iron Lady などです。

この第 3 のグループは、第 1、第 2 の両方の手法を活用し、今生きている人々が思い出せる出来事をトピックに、スター級の俳優を使い、莫大な予算、豪華なハリウッドの衣装を使って、映画を制作しています。

このグループのように楽しめて、ありのままの英国の今を知ることに関心があったら、やはり、ケン・ローチ監督の作品がお勧めです。彼の特集はロンドンで 10 月 12 日までつづき、その後、英国中に回ります。多少の憂鬱さはさておき、彼の映画はとてエンターテインメントで、大変愉快的瞬間をもっていることを強調しなくてはなりません。(Looking for Eri (エリックを探して)という作品で、エリック・カントナの仮装で主人公と仲間がギャングの家を襲ったように)そして、驚くほど、かなりの頻度で希望にみちたエンディングを迎えます。彼の映画には、醜さ、惨めさ、怒り、いじめだけでなく、美や威厳、良識、ユーモアがつまっているのです。

Just like real life. (まるで人生のように。)

参考情報 <http://www.bfi.org.uk/>
<http://www.theironladymovie.co.uk/blog/>

Written by Philip Patrick
Copyright © British Council, All right Reserved.